

しおんだより VOL.12



検査があるからこそ、治療が進むのです

前回ご紹介した放射線科と並んで、適切な治療を行うために欠かせないのが、様々な検査です。

検査には、**血液、尿、喀痰**など、身体から採取されるさまざまな検体をチェックするものと、**心電図や超音波検査、呼吸機能検査**など、身体の臓器の状態を外部からチェックするものとの2つに大きく分かれます。

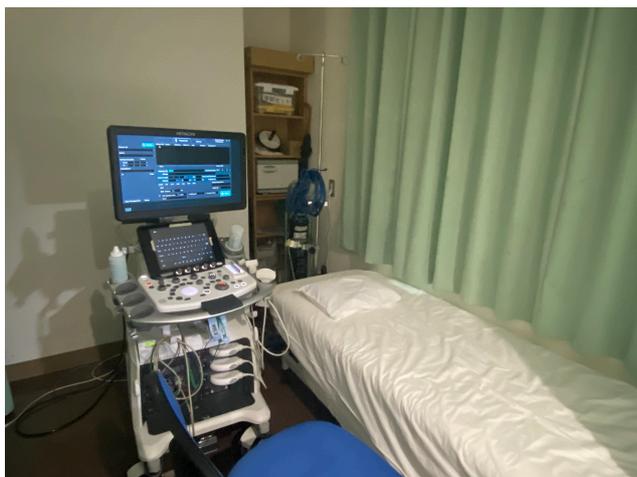
なかでも、血液の検査は、病気の診断や治療の経過を判断する上では、不可欠のもので、多くの患者さんにとっても「血の検査」はなじみにあるものだと思いますが、そのうちの結果を急ぐものは、院内で30分程度あれば結果が出せるようにしています。

また、高齢化とともに、誤嚥性肺炎や尿路感染症なども多いですし、貧血で来院される方もいらっしゃいます。喀痰や尿の培養検査では、どんな抗生物質が効くのかをチェックしていますし、輸血が必要な患者さんにも、迅速に血液製剤が使えるような体制も整えています。普段、なかなか皆様からは見えませんが、非常に重要な役割を果たしているのが検体検査室のメンバーがいてこそ、病院での治療が進むのです。

緊急の血液検査は、院内で迅速に行えるように、休日・夜間を含めて体制を整えています。

また、輸血の準備や、各種検体検査などを適切に行うことで、質の高い医療が実現できるようにしています。

レントゲンだけでは分からない情報もたくさんあります



CTやレントゲン検査は非常に重要な検査ですが、それと同様に超音波の検査も、治療を進めていく上で大切な役割を果たしています。

特に心臓の動きを直接見ることができる心臓超音波検査では、弁の逆流の有無を調べたり、心臓の動きをチェックしたりしています。これらのデータを元に、お薬の内容を変えたり、場合によっては、より専門的な医療機関に紹介したりしています。

また、腹部の超音波検査では、CTの画像とも照らし合わせることで、より詳しい情報を知ることができますが、それによって、必要な治療や内視鏡的な処置、場合によっては外科治療が検討されることもあります。

当院では、名手とも呼ぶべきスタッフがそろっている上、今年、最新鋭の超音波検査機器を2台導入。より正確な検査を行えるようにし、治療の質的向上を目指しています。

新型コロナウイルス感染症の第6波とインフルエンザ

まさに「猛威」を振るったデルタ株を中心にした新型コロナウイルス感染症の第5波は、なんとか収束の方向に向かっていきます。やはり、三密を避ける、マスク、手洗いという基本的な感染予防策とワクチン接種の効果だと思えます。ただ、季節は秋を迎え、インフルエンザに備える季節になってきました。

昨年は、幸い、インフルエンザの流行はありませんでしたが、今年も同じようになるとは限りません。インフルエンザは、依然として、高齢者を中心に多くの方が命を落とす疾患でもあります。是非、新型コロナウイルス感染症と同様、ワクチンの効果は絶大ですので、例年通り、体調がいい時期を見計らって、早めに接種していただくことをおすすめします。



道ばたに咲く花も秋らしく！

院長手作りのしおんだよりも、1年が経過しました。引き続きよろしくお祈いします！

しおんだより 第12号 発行日：令和3年10月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp